

[優秀賞]

◇ 男女共同参画は小さな一歩から ◇

城北小学校 6年 林 大稀

ある朝テレビを見ていたら、
「日本は、146か国中、118位でした。」
というニュースが流れてきました。日本の何
が118位かというと、世界の男女平等が実
現されているかどうかの調査の結果でした。

日本は、教育の機会と健康の分野では、ほ
ぼ平等を達成していますが、政治と経済の分
野では、男女間に大きな格差があるのが理由
だそうです。日常生活では男女格差をあまり
感じませんが、世界全体の男女格差をなくす
には100年以上かかると聞くと、自分にも
何かできないかと思うようになりました。

「毎年、6月23日から29日に、男女共
同参画週間というのがあるんだよ。」

と母が教えてくれました。男女共同参画社会
づくりに対する理解と関心を高めるための機
会が「男女共同参画週間」で、ぼくもこの機
会にいろいろ調べてみようと思いました。

まず、「男女共同参画」という言葉を初めて
聞いたので、インターネットで調べました。

『男性と女性が互いにその人権を尊重し、喜
びも責任も分かち合いつつ、その個性を十分
に発揮すること』と書いてありました。

さらに、男性と女性が共に家庭で、学校で、
地域で、職場で、それぞれの能力を発揮でき
る社会を「男女共同参画社会」ということも
わかりました。

では、なぜ「男女共同参画」が必要なので
しょうか。ぼくは、祖父母に話を聞いてみる
ことにしました。昔はお金をかせぐのは男性、
家のほとんどの家事をするのは女性が当たり

前だったそうです。今のように共働き家庭は
少なく、お金をかせぐ男性が家庭の中心だっ
たそうです。職場でも管理職は男性が多く、
結婚や出産で退職する女性が多かったそう
です。それが当たり前だったので、苦労した人
もいたと話してくれました。

祖父母の話を聞いて、性別が理由で何かし
たいことができなかったり、あきらめてしま
ったりすることがないように「男女共同参画」
が必要だと思いました。

ぼくの家庭は共働きです。休日の朝ご飯は、
父が作ってくれるようになりました。目玉焼
きやウィンナーに少し焦げ目がついていて、
気に入っています。ぼくは妹と一緒に、すす
んでお手伝いをしています。協力して支え合
うことが大切だと思うからです。小さなこと
かもしれませんが、自分にできる第一歩だ
と思います。

佐野市は「男女共同参画都市」を宣言して
います。ぼくたちが社会に出る10年後には、
「さ」…差別なく、「の」…能力を発揮できる、
「し」…幸せに自分らしく生きることができ
るまちになっていることでしょう。まちづく
りのためには、一人ひとりの小さな一歩が必
要です。「男女共同参画」を知って、意識して、
行動することから始めてみませんか。